

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372601098
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア
事業所名	グループホーム ヒューマン・ケア
訪問調査日	平成 20 年 2 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601098		
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア		
事業所名	グループホーム ヒューマン・ケア		
所在地	熊本県合志市幾久富1909-700 (電話) 096-247-0087		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	4月3日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 新築
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円 (補償費として)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊本機能病院 江藤内科 三隅内科 みねとまクリニック なががわ整形外科 光の森脳神経外科 菊池病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静寂な新興住宅地の中に位置する開放感溢れるホームは、凹字型に建てられ、玄関を中心に2つのユニットが、お互いに入居者と職員の特性を表出している。ホームの地域交流室を活用し、地域生活が拡充しており、隣の公園もオープンし、ホームが管理組合の事務局として又役員としても活躍されており、ハード・ソフト両面から地域の一員としての活動があり、希薄になりがちな住宅街の中にあるが更に地域住民との関係構築に向け交流を図る意向である。職員は栄養改善係り等の他様々な担当制を持ち、責任を持ったケアに取り組みされている。SOAP記録法や個別性のあるケアプランや詳細な記録・観察ケアチェック表等から個別ケアが確立していることが窺われる。入居者には“その人らしい生活”を送っていただきたいと支援されており、ゆっくりとした穏やかな日常である事が入居者の表情からも窺え、職員は日々の業務の中で評価しており、質の高いケアが実践されている。職員研修体制も確立しており、今後更なる発展が期待できるホームである。

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価の結果を受け、運営者と管理者での話し合い、職員での会議等により全員が認識し具体的な改善に取り組んでいる。運営推進会議で評価結果を報告、改善策を検討しており、生活空間の改善や理念をBS法により具体的なものへと作り変えている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は孤立化しがちなホームでは自己満足や閉鎖性がある事を認識しており、評議委員会での客観的な評価と、外部評価も違った視線での評価であり良い機会であると捉えている。自己評価はユニット毎に全職員で取り組み、各ユニットの管理者がまとめている。自己評価の課題を話し合い、改善シートを活用し、目標を持って改善へ向け取り組まれている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定例化した運営推進会議は行政・家族のほか協力医療機関の医師等の多くの出席のもと開催されている。ホームの取組み状況や広報誌を配布し、年1回入居者の日常生活をまとめたビデオ上映を行い、日常生活を具体的に認識してもらうように取り組んでいる。又、委員からの要請により議題の周知徹底を図り、外部評価の取組み状況を知りたいとの要望には改善シートを配布したり、勉強をしたいとの要望に外部講師による認知症ケア学習等が行われている。様々な意見をもとに具体的に活用するなど、ホーム運営に反映している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置し、玄関には何でも申し出てほしい旨を掲示している。運営推進会議や敬老会等の行事終了後家族同士の意見交換会の場を作っている。運営推進会議の中での家族の意見が活かされ、研修を入れる等充実した会議となってきた。重要事項説明書に苦情を処理する措置の概要の掲示や公的機関の明文化を図り、入居時に説明が行われている。2ヶ月毎に発行される“あっとほーむ”便りに全職員を掲載し周知を図り、家族の訪問時等入居者の状況報告を行い、家族との関係構築に努めている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの交流室を活用し様々な交流が図られているが、立地条件から地域を広く捉えている。隣接の公園の管理組合としてホームを提供し、運営者は役員、職員は事務局の一員として活動し、昨年は大々的な夏祭り(公園のオープンセレモニー)も開催されている。地域の防火訓練に参加したり、幼稚園や小学校等の運動会等にも参加し、相互交流が図られており、地域の中での生活が充実している。今後は自治会活動への参加等により、更に地域との交流を図っていく意向である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念3項目“入居者の尊厳を重んじその人らしい生活の支援、地域との交流を通して地域に開かれ支えられるホーム、スタッフの生き甲斐を感じられるホーム”と地域密着型となり、BS法により話し合い具体的なものへと変更している。基本方針サービス提供に関する基本的な考え方の8項目の他、介護目標 ヒ(人がたくさん集い) ユ(ゆかいに楽しく) マン(満足のいく生活ができるように) ケ(傾聴と共感の姿勢で) ア(安心で陽だまりのある家づくり)の5項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者はケアを通して学び、生きがいを持ってケアに当る事で一歩踏み込んだケアができると考えている。理念がケアに活かされており、月1回行う方針会で指導している。職員も皆で考えた新理念であり、事例を通して検討するなど理念の共有化や実践に向け真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの交流室を活用し、ボランティアや保育園児や小学生の来訪等様々な交流が行われ、地域を広く捉えている。隣接の公園の管理組合事務局になっており、運営者は役員、職員は事務局の一員として活動し、昨年は大々的な夏祭り(公園のオープンセレモニー)も開催されている。地域の防火訓練に参加したり、幼稚園や小学校等の運動会等にも参加し、相互交流が図られており、地域の中での生活が充実している。今後は自治会活動への参加等により、更に地域との交流を図っていく意向である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は孤立しがちなホームでは自己満足や閉鎖性がある事を認識し、評議委員による客観的な評価と、外部評価により違った視線での評価であり良い機会であると捉えている。昨年度の外部評価の結果を受け、運営者と管理者での話し合い、職員での会議等により全員が認識し具体的な改善に取り組んでいる。理念の具体化や生活空間の改善、ヒヤリハット・事故報告書の書式の見直し等が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例化した運営推進会議は行政・包括支援センター・自治会長・民生委員・ボランティア会・家族のほか協力医療機関の医師等の出席のもと開催されている。ホームの取り組み状況や広報誌を配布し、年1回は入居者の日常生活をまとめたビデオ上映を行い、日常生活を具体的に認識してもらうように取組んでいる。又、委員からの要請により議題の周知徹底を図り、外部評価の取り組み状況をしたいとの要望には改善シートを配布したり、勉強をしたいとの要望に外部講師により認知症ケア学習等が行われている。様々な意見をもとに具体的に活用するなど、ホーム運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席により行政との関係が深まり、窓口での相談や電話で連絡を取り合っている。地域に向け認知症の基礎的部分の研修会を開催していく意向である。	○	更に今後評価結果等提出時等を通じて市担当者との交流を図り、ホーム独自で行われたアンケートの課題の一つ地域の方々の認知症のことを学びたいとの思いに応えるべく、行政にこのホームでやれる事を伝え、一緒に企画・参画されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時やプラン説明時に日常生活や健康状態を説明するとともに2ヵ月毎に発行される“あっとほーむ”便りにより入居者の暮らしぶりを報告している。特変時や事故等の場合は随時経過報告がなされている。金銭預かり金については預かり金取扱い規程を作成し毎月個別に報告している。職員の異動は最近は無く、“あっとほーむ”便りの20年1月号に全スタッフを掲載し、家族への周知を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、玄関には何でも申し出てほしい旨を掲示している。運営推進会議や敬老会やクリスマス会後家族同士の意見交換会の場を作り、意見や要望の収集に努力されている。運営推進会議の中での家族の意見が活かされ、研修を入れる等充実した会議となってきた。重要事項説明書に苦情を処理する措置の概要の掲示や公的外部機関の明文化が図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へのダメージを考え、ユニット間の異動は余り行われていないが、入居者の状況や新人職員の偏り等の場合等必要性が出てくる場合も想定している。離職もスキルアップ等がほとんどで、退職がある場合には新規採用を早めに行い、全時間帯へ配置し、馴染みの関係作りや十分な引継ぎをする等入居者への影響を最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、外部研修への参加も勤務とし、働きながら学ぶ事を推奨しており、職員は認知症ケア専門士やレクレーション指導員・介護予防運動療法士の他資格取得に向けスキルアップに努めている。ホーム内では月1回の方針会や年間計画を立て毎月勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流促進に繋げ、情報交換や問題点を見出しお互いにアドバイスしあう等質の向上に努めている。他のホームの見学やホーム同士の交換研修が行われ、現場を通して勉強する体制が構築しており、今後も継続して取組む意向である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と訪問してもらい、体験入居をしながらの入居決定をしている。家族と十分話し合い、職員は寄り添いや傾聴に心がけ、徐々に慣れてもらうようにしている。体験入居を3日(半日間)された入居者もおられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、一方的に介護するのではなく、掃除や料理、洗濯物たたみ等得意分野發揮してもらう等場面作りをしている。漬物作りや味噌作りや餅つき等においては入居者から学ぶ事も多く、日々喜怒哀楽を共有し、職員の感謝の気持ちに入居者も感謝の言葉を発せられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報をもとに、担当制を採用し、担当職員の寄り添いと傾聴による観察を記録し、カンファレンスにおいて個々のニーズを検討し共有化が図られている。目の不自由な入居者もおられリスク回避も視野に、家族に説明しながら本人本位になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、月1回のカンファレンスや事例検討会を行い、担当職員による24時間のプラン作成や修正、評価を実施している。職員の観察力や気づきが随所に反映された詳細な個別介護計画となっている。家族の面会時に相談しているが、更に家族の意向や要望を聞き、協力を得ていきたいとの意向である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な6ヶ月毎の見直しと入退院や区分変更時等状況に応じた変更がなされている。担当職員が現状を評価し、ケアマネージャーが再検討している。管理者はケアの統一と情報の共有化と人材育成に努めている。個人ファイルからプランの修正、再作成、評価、モニタリングがよくなされ、SOAP式による詳細な記録が執られ、プラン作成に活かされている。介護サマリーも現状に即したものにしたいと一年毎に見直されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	交流室をボランティア等へ開放したり、地域との接点として様々な取り組みが行われている。健康管理の徹底や協力医療機関との連携により、適切な受診や入院の回避、早期発見に取組んでいる。本人・家族の要望に夜間の訪問や週末の外泊、家族の宿泊のための布団、リネン類の整備をする等多機能性を活かした取り組みが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向を把握し、話し合いのもと、以前からのかかりつけ医や協力医療機関(往診医)へ変更されているが、急変時等を考慮し、月1回定期往診(協力医療機関)は受診してもらうようにしている。専門医への受診後の説明にはホーム側も立会い、家族との共有化を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に“重度化した場合における対応に係る指針”のもと説明し、同意書を受入れている。主治医との密な連携が図られており、24時間医療連携も取っているが、今のところ看取りは行われていない。管理者は看取りは難しいが、本人・家族が望まれる場合は最期まで支えていきたいとの意向である。	○	更に入居者の状態の変化や家族の意向の変化等も考慮し、家族との話し合いを重ね、全職員の共通認識のもと、長く住み続けられる支援を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は傾聴を心がけ、穏やかな声かけや手引きの優しさ等入居者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。面会簿の記入方法や記録(入居者の記録にはイニシャルで対応)の保管や記録物の廃棄にはシュレッダー使用等から個人情報漏洩に留意されていることが窺われる。職員教育による徹底化と誓約書を取り、訪問業者からも守秘義務の同意書を受入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの入居者個々の状態や状況の違いを認識し、個々のペースを乱さないよう支援されている。重度化や高齢化が進む中で、一人ひとりと向き合い、寄り添いや傾聴により希望を聞き取り、食事時間や入浴時間等個別対応に心がけ、時には茶の間で横になり皆と一緒に空間を楽しまれたりと希望に添うよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査等によりユニット毎に職員が献立を立て、個々の能力に応じ、配膳・下膳や野菜の下ごしらえ等に参加されている。立ち仕事の無理な人も味見をしたりと楽しみを引き出しながら行われ、ユニットによっては入居者が台所主任として得意分野を発揮されている。昼食時もケアの必要な方の横で、ゆっくりとした食事を支援している。時には弁当持参で公園での食事や中庭を活用しだご汁会等も催されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂場前に“いつでも好きな時間にどうぞ”と掲げている。入浴担当者のアセスメントの後、状態に応じて好きな時間に入浴されるよう支援している。介助や見守りによる個別の入浴となっているが、時には一人では寂しいと誘い合って入浴されたり、家族の訪問時に入られるなど家族の協力を得ている。観察ケアチェック表の記録により、適切な入浴、清潔保持に努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式により生活歴を把握したり、日々の会話で情報を引き出し、経験や得意分野を活かす努力がされている。ゆっくりとした生活の中に軽体操や公文式学習法を取り入れ、身体機能低下防止や認知症進行防止とメリハリのある日常に努めている。公文式学習法はコミュニケーションの一つとして日常ケアの中に活かされており、更に入居者同士のコミュニケーションの部分として生活に繋げたい意向である。毎月ボランティアによる歌の会・日舞の会・お話の会等の他様々な方面からの訪問があり、楽しみごと、気晴らしの支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や体調により公園への散歩や買物、ドライブ、季節に応じ計画を立てた外出、花見や紅葉狩り等支援されている。ホームの中庭もまた日光浴には最適な場所である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけないケアの意義を理解し、常に入居者の所在を確認しており、入居者の不穏状態や外出傾向を察知し、声かけや傾聴等付添いにより居室や玄関等の施錠は行っていない。特に不穏や外出傾向が強い時等は家族へ状況を説明し、家族との電話時間帯や外出、外泊の話し合いを行い、落ち着いた生活ができる様協力支援を得、安心した生活を送られるよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て、消防訓練が実施されている。運営推進会議の中でも防火訓練の報告がなされ、地域への協力を要請している。近隣住民との連携の重要性を認識し、関係強化を図る意向である。防災備品の用意や防災避難場所も確保されている。	○	消防訓練は今のところ近隣住民の参加はない。まずは訓練の様子を見学していただけるよう、運営推進会議の委員の一人自治会長さんを通じ、広報物を利用して訓練の日時の周知を図ったり、声かけしていただき、先ずは見学や二時的も守りへの協力などが得られるよう検討いただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況や水分補給の状況を観察し、バイタルと共に観察ケアチェック表に記録する事で栄養バランスや脱水防止に努めている。栄養改善係を決め栄養評価を行い、情報交換ノートを作成し情報の共有化を図りながら、個々に合った食事量の把握に努め、盛り付けの工夫や食事形態(キザミ等)等、一人ひとりの状態に応じ支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	凹字型に建つ2ユニットから中庭が見渡せ、樹木や花が植えられ、玄関内外ともに家庭的な雰囲気作りがなされている。リビングにはユニット毎に入居者の状態に応じ、テーブルやソファを配置し、季節の花やポスター、行事の写真等が掲示されている。掃除が行届き、異臭や騒音等も無く、生活感や季節感を盛り込んでいる。畳の居間も設けられ、テレビを配置したユニットとコタツのあるユニットになっており、入居者の身体機能の違いが認識され、職員は創意工夫しながら居心地良い共有空間を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と話し合い、家族の協力が得られた居室は仏壇・位牌、自分で書かれた絵等様々なものが持ち込まれている。和室や夫婦部屋もあり、自由にレイアウトされ、布団やベッドでの生活等自宅での延長線として、個々が過ごしやすい居室づくりをしている。		